

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

44

表紙：クラフト“旅立ちを祝う ありがとうの木”

タッセル帽をかぶった子どもたちの笑顔が、大きな木いっぱいに広がっています。

「Thank you」の文字とともに描かれたこの風景からは、キンダーで過ごした日々への感謝と、

仲間と育んできた時間のあたたかさが伝わってきます。

たくさんの思い出を胸に、それぞれの未来へと歩み出す——卒園の季節を彩る、あたたかな光景ですね。

アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の
最新ニュースやトピックなど皆さまに
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2026年3月発行 Vol.44

次回 5 月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

☎ 530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



★登美ヶ丘校卒園生 シナジー教育による母校訪問

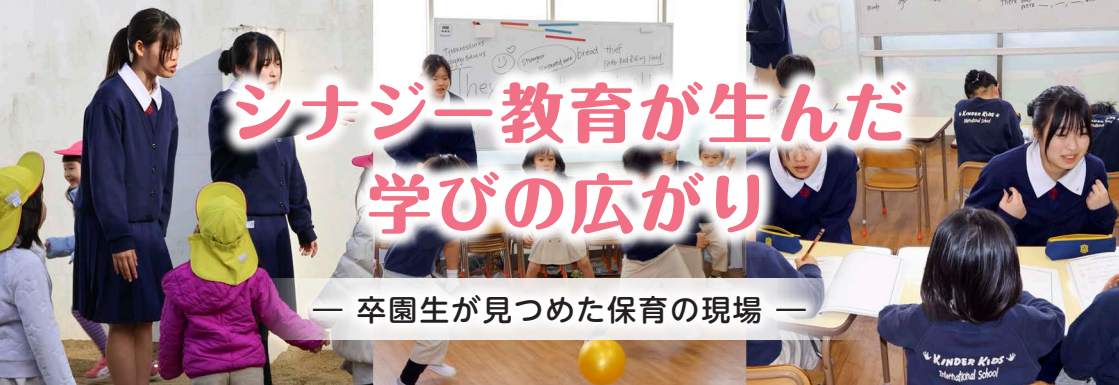
★インフィニティ「自分たちで創る校外学習」／内部推薦願書受付開始

★キンダーキッズ作品コンクール2025入賞者発表

★福岡校10周年記念イベントのお知らせ



日本の心と、英語の力。Kinder Kids Inc.



シナジー教育が生んだ 学びの広がり

— 卒園生が見つめた保育の現場 —

奈良登美ヶ丘校に、懐かしい再会の時間が訪れました。

今回、園を訪れたのは登美ヶ丘校を卒園し、現在、奈良市の育英西中学校に通う二人の中学生。

中学校での探究学習をきっかけに、保育の現場と向き合う機会が生まれました。

懐かしい園舎、先生との再会、そして子どもたちとの時間。

かつて園児だった二人は、新たな視点で“保育の仕事”を見つめました。

探究学習がきっかけとなった今回の訪問

今回の訪問は、二人が通う中学校での探究学習から始まりました。奈良登美ヶ丘校を卒園し、現在、奈良市の育英西中学校に通う二人は、社会問題をテーマに調査・探究を進める学びの中で「保育士不足」に着目。調べ学習を重ねる中で、保育の現場を実際に見てみたいという思いが生まれ、かつて自分たちが通っていた登美ヶ丘校への訪問が実現しました。



当日、園を訪れた二人は、複数のクラスで保育の様子を見学。K3クラスでは、Theme WritingとCodingの活動が行われており、子どもたちがタブレットを活用しながら学ぶ姿に強い関心を示す場面も見られました。特にCodingの授業は、二人が在園していた頃には無かった活動。子どもたちが自然にデジタルツールに触れながら学ぶ様子に、時代の変化と教育環境の広がりを感じている様子が印象的でした。またTheme Writingの活動では、子どもたちと一緒に言葉を考えながら学びに参加し、英語でやり取りを行う姿も見られました。教室での活動だけでなく、ドッジボールや園庭遊び、ナースリークラスの子どもたちとの交流など、限られた時間の中でさまざまな場면을体験しました。

また今回、二人はCDM (Childcare Development Manager) の谷口華奈子先生に、保育士の仕事やキンダーキッズの取り組みについて質問を行いました。子どもと関わる姿だけでは見えてこない仕事の内容や、保育の現場に求められる視点や役割について、真剣に話を聞く姿が印象的でした。

【シナジー教育とは】

「シナジー (Synergy)」とは、異なる視点や要素が組み合わさることで、より大きな価値や学びが生まれるという考え方。知識を学ぶだけでなく、社会や現実の世界と結び付けながら、自ら問いを立て、考え、行動へとつなげていく学びの在り方を指します。今回訪問した卒園生が通う育英西中学校では、この考えに基づいた探究型授業「シナジータイム」が実践されています。



大変な仕事だけど、 人を笑顔にできる仕事だと知った

育英西中学校 2年 W.A.さん

中学校での探究学習の中で、私たちは社会問題について考えています。その中で私は「保育士不足」に着目しました。訪問前は、子どもとの関わりが楽しく笑顔の多い仕事という印象と、一方で仕事量が多く大変そうというイメージを持っていました。実際に園を訪れて感じたのは、先生方も子どもたちも常に笑顔で過ごしている姿でした。先生方が分担しながら保育を行い、一人一人の負担を減らしていることにも気づきました。単語の書き方を質問され答えたときに“Thank you”と言ってもらえたことがとても印象に残っています。この体験を通して、保育士は大きな役割を担いながらも人を笑顔にできる仕事だと実感しました。また、どんな仕事においても相手を思いやる姿勢が大切だと学びました。



違う視点で訪れて、 改めて感じた保育の魅力

育英西中学校 2年 R.T.さん

中学校での「シナジータイム」では、自分たちで問いを立て、自分たちで考え行動する学びを行っています。私はその中で社会問題として「保育士不足」に関心を持ちました。以前からキンダーキッズで働きたいと思っていたこともあり、実際の現場を見てみたいと考えました。訪問を通して印象的だったのは、タブレットを使った新しい活動でした。私たちの頃にはなかった取り組みに驚き、時代の変化や教育環境の広がりを強く感じました。また、園児の頃には気づかなかった先生方の細やかな気遣いにも気づくことができ、保育の仕事の奥深さを改めて実感しました。改めてキンダーキッズで過ごした時間への感謝の気持ちが深まりました。



K2時代の担任・直子先生、
K3時代の担任・Jon先生と久しぶりに再会



自分たちの時代にはなかった
Codingの授業に興味津々



華奈子先生へのインタビューでは、保育現場や
キンダーの取り組みについて真剣に耳を傾けました。



日々の保育を未来へとつなげ 「帰ってこられる場所」であり続けたい

二人のK2時代の担任 赤松 直子

久しぶりに二人と再会した瞬間、思わず「えっ、もう中学生!?!」と声をあげてしまいました。背も高くなり、とても落ち着いた姿に驚きながらも、笑ったときの表情には当時の面影が残っていて、懐かしさが込み上げました。K2の頃から積極的で、嬉しいことも悔しいことも全力で表現していた姿が今でも印象に残っています。クリスマスコンサートで演じたティンカーベルの姿も、昨日のこのように思い出されます。こうして成長した姿で園を訪れてくれることは、保育士として何よりの喜びです。子どもたちにとってキンダーキッズが「帰ってこられる場所」であり続けられるよう、これからも一人一人とのご縁を大切にしていきたいと思っています。



問いを持って現場と向き合う、 その学びの価値

Childcare Development Manager
谷口 華奈子

今回の訪問で最も印象的だったのは、中学生から「保育士不足」という社会問題について問いが出たことでした。お二人は事前に明確なテーマと疑問を持ち、単なる職業体験ではなく、社会の課題として保育の現場を見つめようとしていました。問いを持って現場に入ること、聞き取りや体験は主体的な学びへと変わります。保育士の話に真剣に耳を傾け、理解しようとする姿勢に大きな成長を感じました。また、園庭で無邪気に走り回る姿には当時の面影も重なり、私たちにとっても微笑ましい時間となりました。今回の取り組みは、仕事の価値を改めて見つめ直すと同時に、若い世代が保育という仕事に関心を持ち、社会課題として考えてくれることへの希望を感じる機会となりました。

自分たちで創る 校外学習

IPCユニット「Chocolate」

— 明治なるほどファクトリー大阪見学 —

子どもたち自身の発想から始まった、今回の校外学習。

IPC ユニット「Chocolate」の学びと結びつけながら、計画・準備・実践へと展開しました。

行き先の検討から事前学習、そして事後学習へ。

一つの校外学習が、より深い探究の機会へとつながっていきます。



【IPCユニット】

IPCユニットとは、ひとつのテーマを軸に、複数の教科を関連づけながら学習する単元のことを指します。

例えば「チョコレート」のユニットでは、子どもたちが大好きなチョコレートをテーマに、さまざまな教科の学びを深めています。

一つの疑問から始まる、新しい挑戦

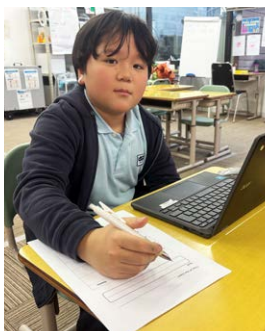
2学期に実施されたコリアンタウン校外学習。韓国の文化や伝統に触れる貴重な学びの機会となりました。その一日の中で生まれた、ある小さな気づき。用意されたお弁当について、「少し量が足りなかった」という声があがりました。何気ない感想から広がった一つの疑問。「このお弁当も、行き先も、全部先生たちが決めているの?」その中で、4年生のYくんからある提案が生まれました。

「だったら、次は自分たちで遠足を計画してみたい。」

この提案をきっかけに、Yくんを中心とした新たな挑戦が始まりました。子どもたちの関心は、やがて“どの場所で学ぶべきか”という視点へと広がっていきます。

IPCユニット「Chocolate」とつながる探究の学び

今回の校外学習は、IPCユニット「Chocolate」での学びを実体験と結びつけることを目的として計画され、行き先の検討では、子どもたちから複数の候補が挙がりました。



最初に提案を行い、プロジェクトのリーダーを務めたYくん

「どの場所が自分たちの学習と最もつながるのか」

その視点から比較・検討が重ねられていきました。当初は移動手段の制約もあり、候補は何度か見直されることになりました。しかし、条件と学びの意義の両面から話し合いを重ねる中で、行き先は二転三転しながら徐々に絞られていきました。

そして最終的に選ばれたのが「明治なるほどファクトリー大阪」です。教室での探究と、実社会での学びが結びつく場所でした。教室ではこれまで、チョコレートがどこで育てられ、どのように世界へ広まり、人々の暮らしや文化と関わってきたのかを探究してきました。単なる食品としてではなく、歴史・社会・産業・環境と深く関係する存在としてチョコレートを捉える学習です。

訪問先であるチョコレート工場では、カカオ豆が製品へと変化していく工程を直接見るすることができます。原材料が加工され、形を持ち、商品として完成していく過程は、科学や技術、ものづくりの工夫そのものです。教室で得た知識が、現実の世界とつながる機会となりました。学びは製造工程だけでなく、原材料の調達、生産背景、流通の仕組みへと視点が広がっていきます。カカオを育てる農家の存在、環境への影響、国際的な貿易。チョコレートという身近な存在の背後には、グローバルな課題が数多く存在していることにも気づかされます。また、フェアトレードや持続可能な生産について知ることは、子どもたちにとって非常に重要な学びとなりました。

「私たちが選ぶ一つの商品が、世界の誰かの暮らしにつながっている」

この視点は、深い理解へとつながっていきます。今回の校外学習は、チョコレートを「食べるもの」から「人・場所・歴史・社会をつなぐ存在」へ、再定義する探究の機会となりました。



工場見学に先立ち 事前にチョコレートについて理解を深める

【明治なるほどファクトリー大阪(高槻市)】

チョコレートの製造工程の見学やチョコレートの栄養素、健康効果の紹介などを通じて、安全・安心なモノづくり、「食と健康」へのこだわりの取組みについて、楽しく学ぶことができる施設。



探究を深めた、発見の一日

工場見学当日。子どもたちは、教室で積み重ねてきた学びが“実際の世界”とつながる瞬間を体験しました。見学では、「たけのこの里」や「きのこの山」が作られる製造工程を間近で観察。チョコレートが材料の状態から少しずつ形を持ち、最終的に商品として完成していくまでの流れを追っていきました。特に印象的だったのは、製造ラインでの気づきです。ロボットによる精密な作業と、人の手による確認や調整。それぞれが異なる役割を担いながら支え合う姿



「チョコだけじゃない!」明治には多様な商品があることを知り、関心を深める子どもたち

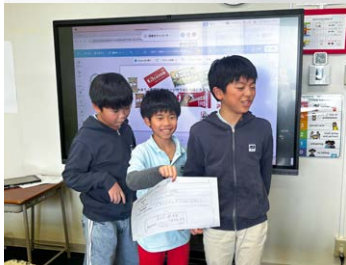
から、現代のものづくりにおける技術と人の協働を実感する場面となりました。
 さらに、質疑応答の時間では新たな驚きも生まれます。マーブルチョコの色が野菜由来であること、パッケージ印刷に使われるインクにイカスミが活用されていること。身近なチョコレートの背後にある工夫や技術に触れたことで、子どもたちの関心は「知っているつもり」から「もっと知りたい」へと変化していきました。今回の見学は、知識の確認ではなく、探究をさらに深めるための“発見の連続”となったのです。

探究は一日で終わらない

―事前・事後学習という学びの深化

事後学習では、見学体験をさらに深める取り組みが行われました。今回の振り返り学習は、プロジェクトの中心となったYくん自身が企画し、指導を担いました。活動テーマは「チョコレートのパッケージづくり」。チョコレートの味や対象年齢はルーレット形式で決定され、その条件に合わせた商品設計をグループごとに考えていきました。子どもたちはデザインだけでなく、「値段設定」「販売場所」「色使い」「キャッチコピー」といった視点へと発想を広げていきます。「どうすれば手に取りたくなるのか」「誰に向けた商品なのか」。見学で得た知識と、自分たちのアイデアが結びつき、学びは“創造の領域”へと発展していきました。

発表後には、最も売れそうな商品を投票で選出。互いの考えを認め合いながら、探究はさらに深まっていきました。



事後学習では、グループごとに与えられた「味」「対象年齢」の条件に合ったパッケージをデザインし、みんなに発表



G4+ チューター
野口 三奈

主体性が育てた、本当の学び

今回の取り組みを通して、子どもたちには多くの成長が見られました。特に印象的だったのは、最初に提案を行った児童の変化です。「自分でやってみたい」という一歩から始まり、計画・連絡・準備・発表までをやり遂げた経験は、単なる校外学習の枠を超える学びとなりました。また、プレゼンテーションを通して「伝えることの難しさ」を実感したことも重要な成長でした。相手を意識して考える力、分かりやすく伝えようとする姿勢。これらは教室内だけでは得がたい、実体験だからこそ生まれる学びです。さらに、「先生たちの仕事の理解」「学びをつくる側の視点」「仲間との協働意識」といった内面的な変化も見られました。今回のプロジェクトは、主体性・計画性・コミュニケーション力を育む、非常に意義深い取り組みとなりました。この経験は、今後の学習や学校生活においても、確かな土台として生きていくと感じています。

インフィニティ国際学院
初等部HP



大阪市天王寺区
烏ヶ辻1丁目 2-22



受験に縛られない夏。

家族と過ごす幼稚園最後の特別な時間…

インフィニティ国際学院初等部

2027年度 **内部推薦**
願書受付開始

キンダーキッズでの英語学習や園でのルール・活動の中で日々楽しく過ごしているお子さまは、特別な受験対策を行う必要はないと考えています。過度な受験対策に子どもを晒さず、就学前の最後の夏休みをご家族で大切に過ごしていただきたいという想いから、内部推薦制度を導入しました。

2027年度 インフィニティ国際学院初等部 内部推薦受験(専願受験)

入学検査
なし

入学までの
イベント料
免除

学習クラス
入会金
免除

※内部推薦での合格者は入学までに学習クラス受講を推奨。3月月謝にて入会金を相殺いたします。

出願期間 3月23日(月)～5月20日(水)17:00

受験資格 2020年4月2日～2021年4月1日までに生まれた者、かつキンダーキッズ在園生

応募条件 K3の5月時点での在籍校からの推薦
※対象児は在籍校の推薦状のみで、別途入試はありません

出願方法 インターネット出願のみ
※キンダープラスから願書フォームをダウンロードしてご入力ください。

保護者面接 6月中旬まで随時実施

合格内定 6月24日(水)正午

【お問い合わせ】

右記QRコードのお問い合わせフォーム、またはメールにてお問い合わせください。
admission@infinity-gakuin.jp

※メールでご連絡の際は、必ず「お子さまのお名前、所属校/学年」の情報をご記載ください。





KINDER KIDS 作品コンクール2025



今年度の作品コンクールには約190名のご応募をいただきました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございます。どの作品も個性が輝き、日々の経験や思いが丁寧に表現されていました。なお、今年度より参加賞を設け、フォニックスキャラクターをあしらったキダーキッズオリジナルのマルチケースを贈呈しました。来年度もぜひお気軽にご応募ください。



最優秀賞

作文部門

R.F.ちゃん
(奈良登美ヶ丘校・K1)



おしごとたいけん

なつやすみに、おかあさんと、おじいちゃん、おばあちゃんと、おばちゃんといっしょに、ふくおかのキツザニアにいきました。さいしょにモデルになりました。ひとりであるのがどきどきしました。つぎはダンサーになって、ピーターパンのダンスをおどりました。みじかいじかんでおぼえるのがむずかしかったです。シェフになって、じぶんでつくって食べたベトナムのフォーはおいしかったです。さいごはテレビキャスターで、おおきなこえで、ながいぶんをいうのがたいへんでした。またみんなでいききたいです。つぎは、きやくしつじょうむいんど、しょうぼうしをやりたいたいです。



わかざぎつりをしました。ジャンプをしてもわれないこちらにあなたがいていて、そこからエレベーターのようにさかなをつりました。さかなはこおっていきなくて、ぼくにとびかかってきました。ふしぎなあなたなどおもいました。



優秀賞

絵日記部門

S.K.くん
(品川校・K2)



優秀賞

作文部門

R.M.ちゃん
(品川校・K3)

なつやすみのおもいで

なつやすみに、かぞくといっしょにほっかいどうのとまむにいきました。おてんきもよくて、ゴンドラにのってうんかいをみたり、ひつじにエサをあげたり、とてもたのしかったです。いちばんおもしろいのは、そのおんせんにはいったときに、しかが15ひきもいたことです。あかちゃんのしかもいて、とてもかわいかったです。おかあさんが「なんていいたいみんぐ」といって、わたしもうれしくなりました。はじめてちかくでみたしは、めがまんまるで、こわくなくて、やさしそでした。しはは、ずっとわたしたちのことをみていました。また、あいにいきたいです。



優秀賞

作文部門

M.M.ちゃん
(横浜校・K3)

およぐれんしゅう

わたしはなつやすみに、かぞくでおだわらにいきました。おだわらはよこはまよりもすずしく、たけやきがやまにたくさんはえていました。くうきをすいこむと、とてもさわやかなきもちになりました。プールのいき、およぐれんしゅうをしました。はじめはおとさんやおかあさんにかまっておそるおそるおよぎましたが、れんしゅうするうちにひとりできわをつかっておよげるようになりました。とてもうれしかったです。はじめはみずがこわかったけれど、だんだんこわくなくなり、ひとりでおよぐと、とてもきもちがよかったです。またかぞくでおだわらのプールでおよぎたいです。



優秀賞

作文部門

I.S.ちゃん
(芦屋校・K3)

はじめてのコンクール

わたしは、なつやすみにピアノのコンクールにはじめてでした。きよくはベーターペンによるこびのうたをえらび、れんしゅうではたくさんひくだけではなく、ドイッゴでうたったり、だいくのコンサートにいたりもしました。するとどんなふうにもひくかわかってきました。コンクールではとてもきんちょうしたけれど、わたしはころのなかでうたいながらひきました。しょうをどれなかつたけれどせんせいもかぞくもとてもほめてくれて、うれしかったです。らいねんのピアノのコンクールにもまたたいたいです。つぎはもっところをこめてひきたいです。

ぼくは、むしがだいすきです。このなつは、パパとまいにちセミとりにいきました。あるよる、セミのうかをみにいきました。はじめてみたので、かんだうしました。うまれたては、はねがみどりでもきれいでした。らいねんもいきたい。



絵日記部門

K.N.くん
(ミリカ・K2)

はれたきんようび きんようびは、おかあさんと、スクールにいけます。あさ、はれていると、「きようは、あるいてスクールにいこう。」とおかあさんがいいます。ぼくは、そのことをきくととてもうれしくなります。だから、いつもより、はやくじゆんびをします。そして、みんなでてをつないで、しゅっぱつします。あるきながら、みんなでおはなをさがします。さくら、つつじ、あじさいにひまわり。きせつがかわると、おはなのしゆるいもかわって、それをみつけることがたのしいです。ぼくは、はれたきんようびが、だいすきです。



作文部門

K.I.くん
(福岡校・K2)

小さな手と紙飛行機 今朝、息子が紙飛行機を折っていた。やわらかな光が差し込み窓の外では風が葉を揺らしている。何度も挑戦してきた折り方が、今日は驚くほどきれいに仕上がっている。「飛ぶよ!」と笑顔で放った機体は、軽やかな風に乗ってまっすぐ遠くへ。去年はうまく飛ばせず、悔しそうにしていた姿が思い出される。今年は自信に満ちている。季節はめぐり、私も変わった。でも、息子の成長を見つめる時間だけは、いつも特別だ。小さな手、小さな挑戦、そのすべてが今しかない宝物。



保護者参加部門

S.U.くんのお父様
(高槻校・K2)



日本語学習課
小林 美智子

日本語学習クラスでは今年度より、さまざまな新しい取り組みを進めています。制作など季節の活動を通して四季の移り変わりや伝統行事に触れ、日本の文化に親しむ機会を大切にしています。紙相撲や福笑いでは、ご家庭での様子を写真や動画でたくさんお寄せいただき、ありがとうございました。今後はこうした活動に加え、道徳活動や英語カリキュラムのテーマも学習クラスで扱うよう準備を進めています。また、川柳部門も新設しましたので、親子で気軽に言葉遊びとして取り組み、ぜひご応募ください。学習を通して「日本の心」を育むお手伝いできれば幸いです。来年度もご参加をお待ちしております。

キンダーキッズ福岡校10周年記念

KidZania × KINDER KIDS International School
Fukuoka

キzzaニア福岡

貸切イベント開催!

2026年
7/17
金

福岡校は、おかげさまで開園10周年を迎えます。日頃のご支援への感謝を込めて、「福岡校10周年記念イベント」を開催いたします。在園生・保護者の皆さまに加え、卒園生も参加いただける特別な機会です。当日は、みなさまとお会いできるのを楽しみにしております。

【キンダーキッズ福岡校10周年記念】キzzaニア福岡貸切イベント

- 日程** 2026年7月17日(金) **会場** キzzaニア福岡 (福岡市博多区那珂6-23-1 ららぽーと福岡)
- イベント時間** 16:30~19:30 ※時間は変更になる可能性があります。 ※10周年記念イベントのため、当日は全園児ショート保育となります。
- イベント内容** キzzaニアを貸し切り、記念イベントを開催します。キzzaニアのお仕事体験プログラムにはK1以上のお子さまが参加可能ですが、K1未満のお子さまにも楽しんでいただけるプレイエリアや、別途お仕事体験プログラムを準備する予定です。
- 対象者** 福岡校在園生、福岡校Grad生(キンダーキッズ在園生の兄弟も参加可能)
- 料金**
 - ・K1 ~ Grad生 : ¥6,600
 - ・Baby ~ Pre Kinder : ¥3,300
 - ・大人 (16歳以上) : ¥3,300※参加費は月謝にて徴収予定
※参加人数により体験ブース数および最終的な金額が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※本イベントは、福岡校以外のエリアの方はご参加いただけません。

10周年記念Tシャツを販売いたします!

・制服としても着用OK!(2026年度のみ)
・ご家族の方用もご購入いただけます!

※イメージイラスト

★イベント出欠確認・Tシャツ申し込みのアンケートフォームを、4月中旬ごろ[Kinder+ / Grad+]に掲載いたします。